地理 授業研究

アフリカ州の地域的特色の理解を確かなものにする教科書・地図帳の活用

～「？」と「！」のくり返しと言語活動の充実を通して～

元福岡市公立中学校教諭　立石昌文

1 「アフリカ象＝アフリカ像」の是正

先日，自宅近くのスーパーマーケットで，あるポスターが目に留まった。そこには，“レジで寄付　アフリカへ給食を届けよう募金”と書かれ，ほほえむ黒人の少年が載っていた。生徒にアフリカのイメージを問うと，「熱帯，ジャングル，アフリカ象，黒人，貧困，飢餓」などが多くあげられる。先のポスターは，生徒のこのようなアフリカのイメージを形成する要因の一つになっている。ステレオタイプ化された一面的でマイナス的なアフリカ像を是正し，アフリカ州の地域的特色の理解を確かなものにする学習指導が求められる。

そこで本稿では，以下の点をふまえた授業展開例を提案する。

・地図帳も教科用図書（教科書）であり，主たる教材として十分に活用する。
・関心や疑問（？），既得知識をいかし，思考や表現，資料活用の過程をふまえた主体的な学習を通して，真の理解・納得（！）にいたるようにする。そのために，毎時間，単元レベルでの言語活動の充実を図る。
・理解から新たな関心や疑問が生まれ，それらに取り組むことで理解の深化・拡充が図られる。そのために，「？」と「！」が連続的にくり返され，「習得－活用－探究」が図られる学習内容や学習活動を工夫する。

2 授業展開

【第１時】アフリカ州の導入と白地図作業

『社会科 中学生の地理』（以下，教科書）p.64～65の導入写真を活用する。はじめに，p.65に示されている「探してみよう」に取り組み，写真①～⑥の位置を地図上で確認させる。そして，「見たことがあるものや知っていたものの写真はどれか」，「えっ！これもアフリカなの？自分のアフリカのイメージとは違う写真はどれか」と問い，そのように思ったわけを意見交換させる。

そして，それぞれの写真にまつわる小話を『社会科 中学生の地理 指導書』や『中学校社会科地図 指導書 ワンポイント解説編』を使って紹介する。例えば後書p.51の「キリマンジャロ山と野生動物」中の解説，「ケニアのアンボセリ国立公園は野生動物とキリマンジャロ山がよく見えることで有名。山の雪解け水と草を求めて，象の群れが国立公園に入ってくる。」や「ジェンネのモスク」中の解説，「雨季に備え，毎年２～５月にかけて住民が分担し泥の塗り直しを行っているが，『100年後には見られない可能性が一番高い世界遺産』にも選定されている。」などは，これからのアフリカの学習への興味・関心を高めるであろう。

さらに，「写真①～⑥から，アフリカにはどんな気候がみられるか」と問う。「熱帯以

外の気候もみられる」,「赤道付近のキリマンジャロ山の山頂には雪もみられる」,「ピラミッドのまわりには砂漠が広がっている」などの応答があったところで，次時はアフリカ州の自然環境について学習することを伝える。

最後に，アフリカのおもな国の名称や山脈・盆地・河川・砂漠などの地形の名称が記入できる白地図を用意し，地図帳を使って調べさせる。この作業は，次時以降のアフリカ州の学習を円滑に進めるための準備でもある。

【第２時】アフリカ州の自然環境

（１）アフリカ州の地形の特色

はじめに，教科書p.66「③世界の面積・人口にしめるアフリカ州の割合」を見て，アフリカ州はアジア州とほぼ同じ面積であり，面積・人口ともに最大のアジア州に次ぐことを読み取らせる。

そして，次のような課題に地図帳を使って取り組ませる。

・アフリカは，赤道をはさんで南北約8000㎞の範囲に広がる大陸だが，緯度でいうとおよそ北緯何度から南緯何度にあたるのか。
・アフリカ大陸が面している大洋，海，湾は。
・ナイル川の長さは世界第何位で，どこの国を流れているのか。
・世界最大の砂漠であるサハラ砂漠は，どこの国に広がっているのか。

さらに，アフリカ大陸の大部分は高原や台地で比較的標高が高く低地が少ないことを，教科書p.66「①アフリカ州の自然」を既習のp.36「①アジア州の自然」，p.52「①ヨーロッパ州の自然」と見比べてとらえさせる。

（２）アフリカ州の気候の特色

はじめに，『中学校社会科地図』（以下，地図帳）p.11「①世界のさまざまな気候」を使って，アフリカは赤道をはさんで，広い熱帯・乾燥帯と一部温帯の地域が南北対称に広がっていることをとらえさせる。

次に，地図帳p.43「①アフリカ州の自然・産業・くらし」とあわせて見ることで，気候ごとにどのような植生や動物，農作物がみられるのかをとらえさせる。

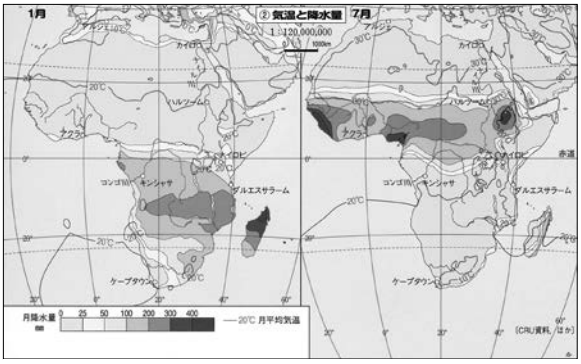


図１　『中学校社会科地図』p.43「②気温と降水量」

さらに，地図帳p.43「②気温と降水量」（図１）を見て,「１月，７月に降水量が多いのは，アフリカのどのあたりか」と問う。そのうえで，１月は赤道以南の降水量が多く，７月は赤道からサヘルにかけての帯状の地域で降水量が多くなっており，アフリカは南北方向の降水量の増減が，乾湿の季節変化を生み出していることを補足する。

最後に，習得から活用につなげるために次の課題を出し，アフリカの地形や気候の面から説明させる。

・タンザニアの輸出品目を見ると魚介類が(図２)，ケニアの輸出品目を見るとバラなどの切り花が多く輸出されているのはなぜか（図４，p.13)。

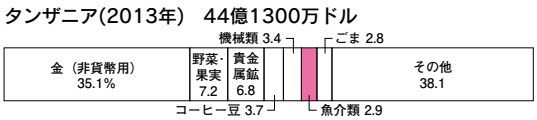


図２　タンザニアのおもな輸出品目
（出典『世界国勢図会　2015/16年版』）

・地図帳p.43「③人口密度」を見ると，アフリカの人口密度が高いところ，低いところはどのあたりか。またそれはなぜか。

なお，説明させる際には，資料を活用しな

がら，相手が理解・納得できる自分の言葉で説明しているかどうかを大切にしたい。そして，数人の生徒に説明させ，だれの説明が一番わかりやすかったか相互評価させるのもよい。

【第３時】アフリカの文化と歴史

はじめに，教科書p.68写真①･②を見て，「同じアフリカでも主食が異なるのはなぜか」と問う。その際，前時の気候の学習を想起させ，アフリカは広大で多様な気候がみられるため，地域によってとれる作物の違いから主食が異なることに気づかせる。そのうえで，教科書p.68「広い大陸でみられる文化」の記述を，地図帳p.15～16「②特色ある料理と食事」を使って確認させる。

次に，地図帳p.17～18「①さまざまな言語（公用語）」と「②さまざまな宗教」を見て，言語と宗教の分布を読み取らせる。北アフリカではアラビア語とイスラム教が主流であること，中・南アフリカではヨーロッパの言語が公用語として使われ，宗教は一部の地域でキリスト教が，ほとんどの地域ではその他の宗教（おもに自然崇拝）が信仰されていることをとらえさせる。

さらに，「なぜヨーロッパの言語が公用語として使われるようになったのか」と問う。生徒から「ヨーロッパの植民地になったから」といった答えが返ってきたなら，「ではなぜ，自分たちの民族の言語があるのに，ヨーロッパの言語を使うのか」と問う。教科書p.68「アフリカの言語・宗教と歴史」の記述でその理由をおさえたなら，地図帳p.44「⑤アフリカの言語分布と紛争」中の「多民族の国－ナイジェリア－」に着目させる。そして，言語も異なる多くの民族が，民族の分布に関係なくヨーロッパ諸国に引かれた国境線のなかで生活しているために，紛争が絶えないことに気づかせる。

最後に，植民地になった歴史からヨーロッパとの結びつきが強いことを，教科書p.69「ヨーロッパとのつながりとアフリカ内の結びつき」の記述を読んでとらえさせ，p.69の「説明しよう」に取り組ませる。

なお，アフリカの歴史や奴隷貿易については，『アドバンス中学地理資料』p.75などを使うと理解が深められる。

【第４時】アフリカの産業と経済を支える輸出品

はじめに，教科書p.70写真①でチョコレートの原料となるカカオ豆の乾燥作業のようすを見て，「②カカオ豆の生産」で生産が多い国はどこかを調べさせる。原産地は南アメリカだが，現在では西アフリカのギニア湾岸一帯の熱帯で栽培がさかんなことをおさえる。

次に，教科書p.70「カカオ豆を生産する人の話」（図３）を読み，カカオ豆は輸出用として生産し，現地の人々がチョコレートを食べることはないことに気づかせる。そのうえで，教科書p.71「⑥アフリカ各国のおもな輸出品」（図４）を見て，「アフリカ各国の輸出品の特色と，考えられる課題は何か」と問う。一次産品の輸出に特化したモノカルチャー経済の貿易形態と貿易総額の低さに気づいたら，カカオや原油価格などの変動のグラフを提示し，教科書p.71「豊かな資源をめぐる課題」に記述されている問題や課題についてまとめさせる。

最後に，発展途上国の人々の経済的・社会的な自立を支援するフェアトレードの取り組みについて教科書p.71のコラム「共生」を読み，本時の学習でもっと調べてみたいことを出し合う。

図３　『社会科 中学生の地理』p.70「カカオ豆を生産する人の話」

図４ 『社会科 中学生の地理』p.71

❻アフリカ各国のおもな輸出品
〈UN Comtrade〉

そして，学級で出てきた新たな問いや教師が提示した次のような問いのなかから一つ選び，調べておくように伝えておく。

・カカオの価格が近年高騰しているのはなぜか。また，価格が上がってもカカオ農家の生活が改善されにくいのはなぜか。
・カカオ生産地での児童労働の実態と支援。
・フェアトレード商品の種類や認定のしくみ。
・フェアトレードのメリットとデメリット。

【第５時】自立をめざすアフリカの国々

はじめに，教科書p.72①の大型ショッピングセンターの写真を見せて，「アフリカ諸国は貧しいといったイメージが強いが，１人あたりの国民総所得はどれくらいあるのだろうか」と問い，地図帳p.158～159の世界の統計で調べさせ，各国間の格差が大きいこと，原油輸出国や工業化が進んだ国は１人あたりの国民総所得が高い国が多いことに気づかせる。

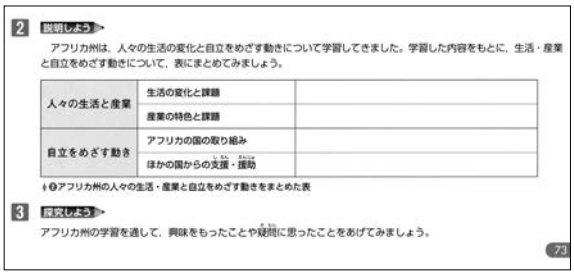
次に，アフリカが抱える問題で知っていることを出し合う。その際，地図帳p.145「②平均寿命」や「③世界の人口増加率」も参考にさせる。

さらに，教科書巻頭１の写真③やp.72の写真③から，日本の企業や青年海外協力隊が行っている支援の例を知ったうえで，「発展途上国への支援や開発援助で大切なことは何だろう」と問う。ここでは，スマホはあっても道が整備されていなければナビは使えないなどの例を出しながら，物が実際に有効に使われるためには，インフラの整備や知識・技術の伝承といった人づくり，また，現地の人々の手で開発を進められるよう自立発展性を支援することが大切であることについて考えさせる。

最後に，日本の企業や青年海外協力隊などが行っている支援の具体例を調べておくように伝えておく。

3 「学習をふりかえろう」の活用による単元のまとめ

教科書p.73の「学習をふりかえろう」は，できれば授業中に１時間確保して取り組ませたい。とくに「２ 説明しよう」は，なかなかうまくまとめられない生徒もいると思われるので，生徒同士で話し合ったり相談したりして取り組ませたい（図５）。さらに，四つの小項目ごとに100字程度の字数制限を設けてまとめさせ，グループ内や学級全体の場で発表させると，言語活動の充実が一層図られる。


2 説明しよう

アフリカ州は，人々の生活の変化と自立をめざす動きについて学習してきました。学習した内容をもとに，生活・産業と自立をめざす動きについて，表にまとめてみましょう。

人々の生活と産業	生活の変化と課題	
	産業の特色と課題	
自立をめざす動き	アフリカの国の取り組み	
	ほかの国からの支援・援助	

❻アフリカ州の人々の生活・産業と自立をめざす動きをまとめた表

3 探究しよう

アフリカ州の学習を通して，興味をもったことや疑問に思ったことをあげてみましょう。

73

図５ 『社会科 中学生の地理』p.73「学習をふりかえろう」

また，「習得－活用－探究」を取り入れ，言語活動の充実を図るために，次の課題の中から一つ選択してレポートなどにまとめさせ，グループ内や学級全体の場で発表させたい。

・「２ 説明しよう」でまとめたことの具体的なある国の事例。
・「３ 探究しよう」であげた興味や疑問。
・第４・５時の最後に出された課題。